



すずらん



収穫祭で日頃から丹精こめて取り組んでいる生産物を販売しました。

『けんもりの秋』

施設長 山田浩久

昨年来より続くコロナ禍は、ワクチン接種も進み緊急事態宣言及びまん延防止等措置が解除され、ここ最近の感染者数は激減していますが、感染力の強い変異株の広がりも懸念されていることから、まだ見通しの立たない状況下において継続した予防対策の必要性を感じます。

学園では、恒例の「田植え祭り」「夏の集い」等地域交流事業、保護者会主催の行事を中止、または、従来の開催形態を変更して開催しています。園生の皆さんは、今年こそは地域から多くの方に来ていただいての、販売活動や交流活動を期待していましたが、今しばらくは、新型コロナウイルス感染症予防対策、新しい生活様式を優先しながら本来の活動形態に戻していく時期とされます。園生一人一人の安全な生活の確保を第一に予防対策を進めていきたいと思います。

さて、学園周辺では落葉樹の紅葉も始まり、正面玄関の櫓の木も鮮やかに紅葉しています。一朝毎に気温も下がり秋の深まりを感じます。10月30日には収穫祭と作品展が開催されました。今年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策で、園生と保護者の方限定の行事となりました。当日は、天候にも恵まれ高等部の力強い和太鼓の演奏で開会し、各活動班では野菜・卵・シイタケなどの生産物の販売をおこないました。各販売テントでは、販売時間の制限もありましたが、来園された保護者の皆様は、両手いっぱい買い物をしていただき、ありがたございました。園生の皆さんは、来園された保護者の皆様と交流の深まった1日になったのではないかと思います。

学園では、地域の方々からの御理解と、御協力をいただきながら障害者の自立と地域移行をすすめてまいりました。今年度は、開園31年目を迎え、新たなスタートの年とし、これまでご協力いただいた地域の皆様、関係機関に感謝するとともに、さらに地域に根差した学園づくりを進めていきたいと思います。

入所式

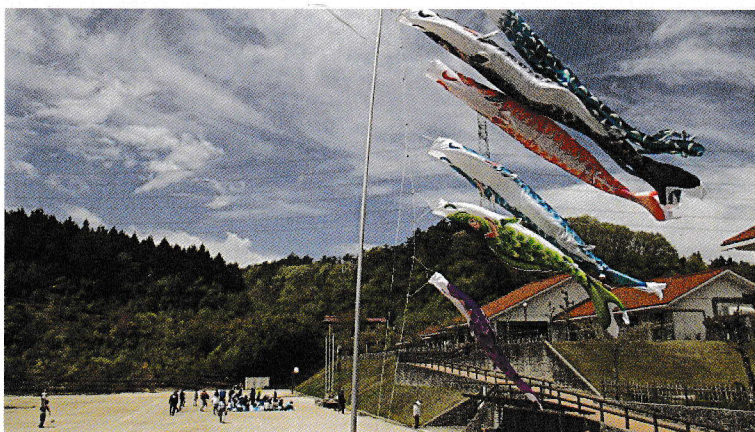
4 / 3



今年も感染症防止対策のために入所生の式への出席はできませんでしたが、新入所生8名の皆さんとご家族の方、担当職員でとりおこなわれました。山田施設長や黒山学園長顧問より「新たな出発おめでとうございます。これから森のなかまと一緒にいろいろなことにチャレンジして行ってください。」と祝辞が述べられました。新入所生の古井さんから「利用者の皆さんと仲良く、そして元気に生活を送り、できることを少しずつ増やしていきたいです。」と挨拶がありました。

新入所生歓迎会

4 / 27



『ともだちの会』の主催で、今年度の新入所生歓迎会をつどいの広場で行いました。最初に新入生の皆さんが、名前、出身地、趣味など自己紹介し、先輩からの質問に答えました。その後、恒例の縄跳び等レクリエーションをして楽しい時間を過ごしました。

田植え祭り

5 / 28



春の恒例行事である田植え祭りを行いました。晴天の中、園生の皆さんは田靴に履き替えて田んぼに入り、苗を田綱に沿って丁寧に植えていきました。感染症の影響で昨年は田植え祭を開催することができませんでした。今年度も地域の方に来て頂いての交流行事はできませんでしたが、全学園生で田植えをすることができました。今後は林産班の皆さんが管理をして、今年の秋にはおいしい米が収穫でき、給食で食べれることを楽しみに待っています。

環境整備

9 / 8



月一回の環境整備を行いました。今月は寮舎と食堂の掃除をしました。自室の掃除は日頃できない本棚やロッカーの裏などをウエスできれいにしています。食堂では窓ガラスや床を、洗剤を使って一生懸命磨きました。また、安全点検も同時に行いました。

社会福祉法人健康の森学園 令和2年度事業報告

社会福祉法人の使命を自覚し、共生社会の実現をめざし地域社会との連携を深める中で、開かれた活力のある施設に向けて運営を行った。また、利用者の地域生活への移行を進める上では、能力開発と人間性・社会性の養成に努めるとともに、自立と社会参加への意欲を高めて、主体的に活動できるように支援した。

1 実施事業名と職員状況

(1) 事業所名

①岡山県健康の森学園障害者支援施設	(指定管理)	定員	35名
②岡山県健康の森学園就労継続支援事業所	(指定管理)	定員	20名
③健康の森学園共同生活援助事業所		定員	51名
④健康の森学園相談支援事業所	特定相談支援	定員	名
	障害児相談支援	定員	名
⑤もりっこ	児童発達支援	定員	10名
	放課後等デイサービス	定員	10名
⑥健康の森学園短期入所事業所		定員	3名

2 業務内容及び執行状況

(1) 知的障害者の基本的な生活訓練及び指導

(ア)利用者支援の充実

- ・今年度は、コロナ感染症予防対策として、保護者を交えての個別懇談には時間制限を設けて対応した。個別支援計画に基づき、自立訓練と就労移行支援では3ヶ月毎に、また就労継続支援B型では6ヶ月毎に、個別支援計画のモニタリングを行い、進捗度や課題などについての検討後、現状に適切した個別支援計画の作成を行った。
- ・自立訓練サービス利用者に対して、就労移行サービスでの体験活動、研修会を開催し、将来の見通しが持てるよう支援を行った。
- ・サービス内容、環境設備、職員の対応等について利用者アンケートを行い、改善点等について職員間で共通認識を持ちサービス向上に向けての意識を高めた。
- ・毎月、施設会議、班会議、個別支援会議等を開催して、作業面と生活面における支援の充実について検討した。
- ・毎月1回の学習の時間の中で、社会生活に必要な知識（性教育、社会ルール、安全、食事マナー、歯磨き等）の支援を行った。今年度は新見警察署生活安全課より講師を招き、防犯勉強会を開催した。

(イ)生活訓練の充実

- ・障害者支援施設において、毎日30分程度の生活訓練時間を設定し、洗濯、掃除、衣類整理等の生活技術習得のための支援を行い、将来の地域生活に向けての意識付けを行った。
- ・グループホーム利用予定者に対しては、グループホームの空室を利用して、宿泊体験や公共機関の利用体験を行い将来の地域生活に向けての意識付けを行った。令和2年度は男性2名、女性3名が個別支援計画に位置付け体験を実施した。

(ウ)健康衛生・安全指導の充実

- ・今年度はコロナ感染症予防対策により、利用者、職員ともに検温等の健康観察を徹底し活動を行った。マスクの着用、手指消毒等の徹底によりインフルエンザの発生も無かった。
- ・定期健康診断を1回、内科検診を2回、歯科検診を1回実施し、利用者の健康管理に努め、治療が必要な利用者については、保護者と連絡を取り治療を行った。
- ・寮舎において、ダニ駆除やめまね換気等を実施して衛生管理に努めた。
- ・毎月1回、火災や地震を想定した避難訓練を実施した。また毎月10日を安全点検の日として危険箇所の点検と修繕を行った。
- ・定期研修として、心肺蘇生法の実技研修、不審者への対応訓練を実施して緊急時に備えた。

【新型コロナウイルス感染症対策】

- ・新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し、感染予防対策を徹底するとともに、発生時における、業務継続計画を作成した。

利用者への対応

- ・定時の検温、健康観察・記録、マスクの着用、手指の消毒の徹底を行っている。
- ・食堂利用については、間隔を広く着席し、同一方向に向いて食事を行っている。
- ・入所施設利用者については、個室での生活を原則とし、集食室での点呼、健康観察等を個室で行っている。(帰宅訓練後2週間)
- ・寮舎内のドアノブ等の消毒を1日2回実施している。
- ・帰宅訓練等については帰宅中の行動記録、健康記録を保護者に依頼している。帰園時には検温し、帰宅中の記録を確認している。

職員への対応

- ・出勤時の検温、マスクの着用、手指の消毒の徹底を行っている。

(2) 健康衛生・安全指導の充実、知的障害者の社会参加の促進

(ア)地域生活への移行の促進(グループホーム支援)

- ・今年度はサテライト住居の利用者1名が一般住宅生活に移行した。また、グループホーム利用者1名がサテライト住居へ移行となりサテライト住居利用者は3名となった。サテライト住居には、生活支援員が定期的に訪ねて見守り支援を行うとともに、世話人による食事の提供、調理指導、金銭管理の支援を行い、一人暮らしに向けた支援を行った。
- ・生活支援員を配置したグループホームでは、例年地域の情報提供を行い、地域行事への参加等、余暇支援を行っているが、今年度はコロナ感染症予防のため行事参加等は中止とした。グループホーム周辺で散歩等を行い気分転換

を図った。

- ・世話人連絡会議や生活支援員会議を毎月開催して、利用者の生活状況について報告を受けるとともに、安全面・健康面・精神面での共通理解を行った。
- ・施設入所者のグループホームへの体験利用を積極的に受け入れ、地域での生活を体験することで、地域移行に向けての意欲向上に繋げた。

(イ)経験の拡大と余暇支援の充実

- ・今年度についてはコロナ感染症予防のため、宿泊学習・スポーツ大会等への参加は中止となり、社会体験の場を十分提供できなかった。
- ・第1、3、5の土曜日の午前中にスポーツ、音楽、手芸・芸術のサークル活動を実施した。今後、余暇の充実につながるような内容を検討していく。

(3) 知的障害者の就労に必要な適応訓練及び指導

(ア)作業訓練の充実

- ・年間269日間の開所日数で、1日当たり6.5時間の活動時間を設定し、一般就労に向けての労働習慣・労働意欲、責任感、挨拶等の育成を図った。
- ・外部講師(元天満屋教育担当者)による接客マナー講習会を開催して、利用者と職員が参加して言葉遣いや礼儀作法について知識を深め社会性の向上を図った。また、ハローワークの実施する企業面接会、職場見学会などに参加することで、就労に対しての意欲の向上に繋げた。
- ・1月あたりの工賃として、自立訓練事業(畜産・果樹班)では9,000円を就労継続支援B型事業(畜産・果樹班)では8,000円を、就労移行支援事業(農産・園芸班)では17,000円を、就労継続支援B型事業(林産・家事生活班)では25,536円を各利用者に支給し、就労の意欲を高めた。
- ・就労移行支援サービス利用者には職場実習に向けての、学習等を行い今年度末2名の利用者、次年度早期に1名が一般就労予定で、他2名が地域での生活に移行した。

(4) 児童発達支援における療育

(ア)利用者支援の充実

- ・就学前の児童発達支援、就学後の放課後等デイサービスにおいて、利用児童の達成感が得られる課題を設定し、活動を通して自信がつくよう支援を行った。
- ・保護者支援として、年2回の研修会及び茶話会を実施し、家庭の支援を行った。

【新型コロナウイルス感染症対策】

利用者への対応

- ・利用時の検温、健康観察・記録、マスクの着用、手指の消毒の徹底を行っている。
- ・施設内のドアノブ等の消毒を実施している。
- ・地域での感染症発生時には、個別指導において利用時間を調整しながら同一時間内において、少人数でのサービス提供を行った。

(5) 県民に対する啓発の推進

(ア)地域社会との連携

- ・市内のアンテナショップ「森のおみせ」では、コロナ感染症予防のため発生状況により店休日を設けた。また、再開後も利用者の参加は見合わせており、リモートでの参加を試みた。職員だけの対応となったが、学園で生産した野菜や工芸品の販売や広報誌等を掲示し学園での活動の様子を地域に紹介し、障害に関する理解・啓発に取り組んだ。
- ・すずらん祭り、納涼祭等の地域行事は中止となり、地域住民との交流の機会は減少した。
- ・新見市障害者地域活動支援センター(ほほえみ広場にいみ)に、障害者自立支援員として1名の職員が出向して、在宅生活者と家族の支援を行った。
- ・施設外就労への取り組みは例年通りに実施でき、農作業活動を通して地域との連携が図れた。

(6) その他、知的障害者の自立の促進に関し必要な業務

(ア)職員資質の向上

- ・コロナ禍の中、外部の各種研修会には参加できなかったが、インターネット等の研修会に参加し専門的知識を高め、施設内研修で関係職員との共通認識を図った。
- ・利用者に対する自分自身の言動についての振り返りを促すために、サービス向上委員会を開催して、職員による虐待や人権侵害の防止について、セルフチェック表により共通認識を深めた。

(イ)保護者等との連携

- ・担当職員との個別懇談会を実施し、利用者の個別支援計画について保護者と職員の連携を図った。また、保護者を組織しており、利用者の活動に協力いただくとともに、希望や意見を聞き事業改善を図った。
- ・例年は、施設の活動状況を報告するとともに、給食試食会及び保護者作業日、スポーツ交流を設定して保護者との連携に努めているがコロナ感染症予防のため中止とした。

(7) 経営基盤の安定

- ・県下の特別支援学校に学園の紹介を行うとともに、10月には施設見学・体験を目的にチャレンジ体験日を設定して将来的な利用促進を行った。8組の家族参加及び教員の参加があった。引き続き開催予定である。

貸借対照表内訳表 令和3年3月31日現在

単位:円

勘定科目	法人本部拠点 区分	障害者支援施設 拠点区分	就労継続支援 事業拠点区分	グループホーム 拠点区分	相談支援事業 拠点区分	短期入所事業 拠点区分	障害児通所支援 事業拠点区分	合 計
資 産 の 部								
流動資産 (1)	3,067,982	101,179,719	12,717,917	11,534,941	5,136,784	582,431	7,234,484	141,454,258
固定資産 (2) = (3) + (4)	21,000,000	140,331,342	13,315,641	6,670,536	2,589,942	0	934,022	184,841,483
基本財産 (3)	21,000,000	0	0	0	0	0	0	21,000,000
その他の固定資産 (4)	0	140,331,342	13,315,641	6,670,536	2,589,942	0	934,022	163,841,483
資産の部合計 (5) = (1) + (2)	24,067,982	241,511,061	26,033,558	18,205,477	7,726,726	582,431	8,168,506	326,295,741
負 債 の 部								
流動負債 (6)	104,414	13,374,002	7,964,957	5,028,368	2,686,510	340,000	1,822,026	31,320,277
固定負債 (7)	0	13,221,512	8,477,208	4,160,244	2,354,808	0	540,108	28,753,880
負債の部合計 (8) = (6) + (7)	104,414	26,595,514	16,442,165	9,188,612	5,041,318	340,000	2,362,134	60,074,157
純 資 産 の 部								
基本金 (9)	21,000,000							21,000,000
国庫補助金等特別積立金 (10)		916,437	135,722		55,000			1,107,159
その他の積立金 (11)	0	124,900,000	3,700,000	2,510,291	0	0	0	131,110,291
次期繰越活動増減差額 (12)	2,963,568	89,099,110	5,755,671	6,506,574	2,630,408	242,431	5,806,372	113,004,134
（うち当期活動増減差額）	224,322	4,707,772	3,282,872	2,737,378	1,520,081	242,431	1,773,590	14,488,446
純資産の部合計 (13) = (9) + (10) + (11) + (12)	23,963,568	214,915,547	9,591,393	9,016,865	2,685,408	242,431	5,806,372	266,221,584
負債及び純資産の部合計 (14) = (8) + (13) = (5)	24,067,982	241,511,061	26,033,558	18,205,477	7,726,726	582,431	8,168,506	326,295,741

資金収支内訳表 自令和2年4月1日 至令和3年3月31日

単位:円

勘定科目	法人本部拠点 区分	障害者支援施設 拠点区分	就労継続支援 事業拠点区分	グループホーム 拠点区分	相談支援事業 拠点区分	短期入所事業 拠点区分	障害児通所支援 事業拠点区分	合 計
事業活動収入計 (1)	62,550	121,034,112	54,566,626	52,304,582	20,486,892	787,210	24,316,499	273,558,471
事業活動支出計 (2)	438,228	126,078,146	46,759,902	48,580,680	15,344,136	544,779	20,515,035	258,260,906
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)	△ 375,678	△ 5,044,034	7,806,724	3,723,902	5,142,756	242,431	3,801,464	15,297,565
施設整備等収入計 (4)	0	682,211	148,060	0	60,000	0	0	890,271
施設整備等支出計 (5)	0	682,211	148,060	0	129,800	0	0	960,071
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)	0	0	0	0	△ 69,800	0	0	△ 69,800
その他の活動収入計 (7)	600,000	11,177,504	0	0	0	0	0	11,777,504
その他の活動支出計 (8)	0	3,306,864	6,011,520	2,177,775	3,688,244	0	2,163,872	17,348,275
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	600,000	7,870,640	△ 6,011,520	△ 2,177,775	△ 3,688,244	0	△ 2,163,872	△ 5,570,771
当期資金収支差額合計 (10) = (3) + (6) + (9)	224,322	2,826,606	1,795,204	1,546,127	1,384,712	242,431	1,637,592	9,656,994
前期末支払資金残高 (11)	2,739,246	87,779,230	4,166,803	5,638,746	1,690,662		4,311,206	106,325,893
当期末支払資金残高 (10) + (11)	2,963,568	90,605,836	5,962,007	7,184,873	3,075,374	242,431	5,948,798	115,982,887

事業活動内訳表 自令和2年4月1日 至令和3年3月31日

単位:円

勘定科目	法人本部拠点 区分	障害者支援施設 拠点区分	就労継続支援 事業拠点区分	グループホーム 拠点区分	相談支援事業 拠点区分	短期入所事業 拠点区分	障害児通所支援 事業拠点区分	合 計
サービス活動収益計 (1)	60,000	117,002,023	52,760,361	50,817,310	20,486,860	698,810	24,316,450	266,141,814
サービス活動費用計 (2)	438,228	126,726,340	46,783,754	48,567,204	15,466,811	544,779	20,542,909	259,070,025
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	△ 378,228	△ 9,724,317	5,976,607	2,250,106	5,020,049	154,031	3,773,541	7,071,789
サービス活動外収益計 (4)	2,550	4,032,089	1,806,265	1,487,272	32	88,400	49	7,416,657
サービス活動外費用計 (5)	0	0	0	0	0	0	0	0
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	2,550	4,032,089	1,806,265	1,487,272	32	88,400	49	7,416,657
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	△ 375,678	△ 5,692,228	7,782,872	3,737,378	5,020,081	242,431	3,773,590	14,488,446
特別収益計 (8)	600,000	11,682,211	148,060	0	60,000	0	0	12,490,271
特別費用計 (9)	0	1,282,211	4,648,060	1,000,000	3,560,000	0	2,000,000	12,490,271
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	600,000	10,400,000	△ 4,500,000	△ 1,000,000	△ 3,500,000	0	△ 2,000,000	0
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	224,322	4,707,772	3,282,872	2,737,378	1,520,081	242,431	1,773,590	14,488,446
前期繰越活動増減差額 (12)	2,739,246	86,191,338	3,672,799	4,744,147	1,110,327		4,032,782	102,490,639
当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)	2,963,568	90,899,110	6,955,671	7,481,525	2,630,408	242,431	5,806,372	116,979,085
基本金取崩額 (14)								0
その他の積立金取崩額 (15)								0
その他の積立金積立額 (16)		1,800,000	1,200,000	974,951				3,974,951
次期繰越活動増減差額 (17) = (13) + (14) + (15) - (16)	2,963,568	89,099,110	5,755,671	6,506,574	2,630,408	242,431	5,806,372	113,004,134

にっこにっこ市

10/22

サンパーク新見店において、「福祉にっこにっこ市」が開催され、市内の福祉事業所で作られた工芸品や農産物の販売をしました。学園からも卵や、椎茸、白菜、サツマイモなどを販売しました。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止でしたが、今年は制限を設けて開催されました。各事業所の紹介パネルも掲示しており、買い物に来られたお客さんはそれぞれの事業所の活動内容などを興味深く見ておられました。



チャレンジ体験

10/23

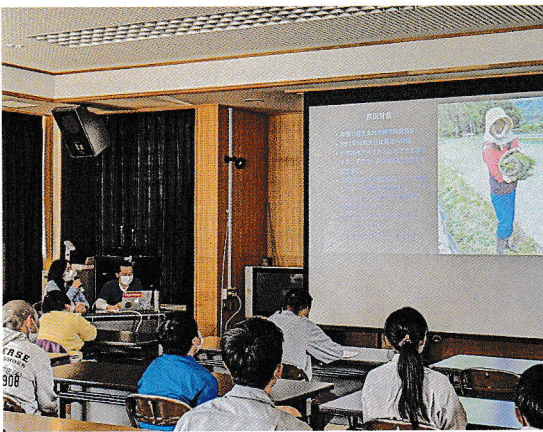


健康の森学園に対する理解を深めてもらうことを目的に体験活動を実施しました。今年度も県内の支援学校から多くの参加がありました。山田施設長の挨拶の後、学園の活動の説明、紹介ビデオを見ていただきました。その後、学園内の見学をしました。最後に作業体験として農産班でサツマイモ掘りを体験して頂きました。参加者の皆さんも楽しい時間をすごされた様です。

利用者研修会

10/27

『私たちはこんな思いで新見に移住し、お米作りを始めました』という演題で、京田貴央・甘奈ご夫妻をお迎えし、勉強会を開催しました。4年前に東京から新見市に移住された経緯や地域の方に支えられて棚田の修復から始めたお米や畑づくりなど、これまでの取り組みについて写真を使つてわかりやすく説明いただきました。利用者みなさんも、普段からお米や椎茸、野菜、お花といった農作業に取り組んでいるのでとても熱心に耳を傾け、沢山の質問を通じて交流ができました。



収穫祭と作品展

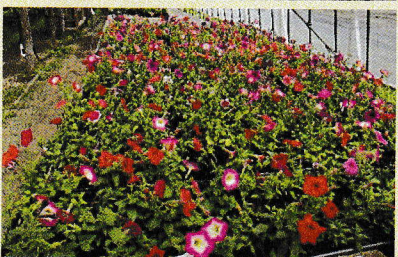
10/30

第31回岡山県健康の森学園「収穫祭と作品展」を開催しました。今回は新型コロナウイルス感染症対策として、園生、保護者、職員のみでの開催となりました。当日は約135名来場され、4グループに分かれて、15分ごとで各班の販売テントを巡るようにしました。販売テントでは農産班の野菜や畜産班の卵、林産班の椎茸など50品目を販売し、保護者の皆さんに買ってもらいました。来年度は通常開催ができ、たくさんの方々の地域の方々に来ていただき、交流ができることを願っています。

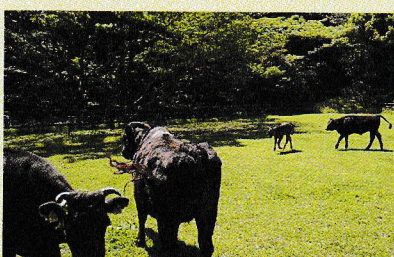


～ 今年も各班から沢山の収穫がありました ～

農産・園芸班



畜産・果樹班



林産家事生活班



新入所生の声

健康での新しい生活が始まって
早半年が過ぎようとしています。
新入所生は、寮生活のリズムにも
慣れてきたようです。「畜産・果
樹班」では、鶏舎・牛舎の整理整
頓を任せられ、卵採りや肥料づくり
に挑戦しています。「重いものを
運ぶときは、俺に任せてくれ！」
と元気に応えてくれました。これ
からについては、皆さん声をそろ
えて「新しい作業も早く覚えて
い！毎日こつこつ頑張ります！」
と笑顔で抱負を語ってくれました。

サービス向上委員会より

令和2年度 苦情受付状況

◎職員に対するもの……………3件

行事予定について早めに伝えて
ほしいなど

◎他の利用者に対するもの…9件
持ち物の無断利用や部屋への無
断入室など

◎その他、洗濯室のドア改修など…7件
※19件の受付があり、それぞれ話
し合って解決できました。

編集後記

東京パラリンピック・自転車ロード種目で2つの金メダルを獲得した杉浦佳子選手（50歳）の、競技終了後のインタビューで「最年少記録は二度とつけれないけど、最年長記録はまたつくれる」とのメッセージが話題になりました。私には到底計り知れない苦難を乗り越え、なお前向きに一步を踏み出そうとする姿に沢山の勇気と励ましをいただきました。森の仲間の皆さんと一緒に頑張っていきます。